あったか子育て　カヌシャガマの会

生駒フォーラム

No. 102
発行責任者
高柳　忠夫
（奈良県議会議員）
事務局 東新町２－10
市民オフィス内
TEL. 71-7700
FAX. 71-7800
http://www1.kcn.ne.jp./~forum/
E_mail. forum@kcn.ne.jp

あけまして　おめでとうございます

未来に生きる子どもたち
出会いと交流をめざします。

ひよこっち・みなみっこ＆バンビ

祝の島（ほうりのしま）上映会

1月15日（日）1時～
ISTAはばたき小ホール
講演会　纐纈（はなぶさ）あやさん
映画「祝の島」監督
交流会　30年間、原発建設に反対を続ける「祝島」の住民の皆さんと

■談山神社

「大化」は元号の始まり、「平成」も新しい改革の記念元号となってほしいものです。中大兄（天智天皇）や中臣鎌足（藤原）は隋・唐などの帰国留学生らと天皇を中心とする中央集権国家（律令国家）建設を画策。「改新の詔」を646年に発布しました。蘇我氏を滅ぼす「乙巳（いっしん）の変」も含め「大化の改新」という説も。ともあれ、多武峰での会合は後に「談山神社」という社号の起こりとなりました。

写真は大晦日、ライトアップされた談山神社の境内です。コンパクトなカメラでもデジタルなら感度（ＩＳＯ）を目いっぱい上げて(1000～3200)撮ってみてください。スローシャッターによる手ぶれを抑制できます。また、露出補正機能があれば、－１（マイナス１）くらいで撮ってみましょう。更にホワイトバランスを設定すると、水銀灯のＧ味を抑えて撮れます。

森本康則先生プロフィール

51年　奈良県橿原市に生れる　72年　日本写真専門学校卒
写真家入江泰吉先生に師事　90年　写真事務所、スタジオ設立　　水門会会員

生駒カメラ・i（アイ）

受講生募集（毎月第1水曜日）

昨年２月、市民オフィスを借りて第１回「生駒カメラｉ(アイ)」の教室が始まりました。講師は森本康則さん。コンパクトカメラの初級者、最近一眼レフデジカメを買った中級者、そして上級者も参加しました。

次回の講習は２月１日（水）午後２時から市民オフィスで。より具体的な撮影の基本、露出やシャッタースピード等の講習が行われます。これまで欠席の人でも参加可。一言のアドバイスで写真が違ってくることが実感できますよ。ぜひのぞいてみて下さい。カメラは携帯でも可。教室のみの参加費は２０００円・撮影会込みの時は４０００円。

震災の南三陸町・石巻市・七ヶ浜町
これからの支援を探って 11月の宮城訪問

橋脚が流れて橋げただけが残る線路、病院の屋根に乗り上げた釣り船、3階建てマンションの上に横倒しになった乗用車…震災から8カ月が経つというのに、宮城県南三陸町は震災の爪痕を大きく残したままだった。新聞などで目にしたことのある戦後の焼け野原のような荒涼とした風景が広がっていた。

11月下旬、宮城県を訪れた。

被災地でのボランティアに加え、復興まで長くかかるであろう被災地に対し、どのような支援ができるかを探るのが狙いだった。仙台市、石巻市、七ケ浜町と訪れたが、復興の兆しが感じられる都市部に比べ、南三陸町は復興にはほど遠い様子。鉄道が寸断され、仙台からは車で2時間以上かかるため、ボランティアも訪れにくく支援が届きにくいという事情があるようだ。しかも、町役場、警察署、消防署という主要な庁舎が被災し、今後の都市計画を定めなければ再建もままならないという。

焼け野原のような殺伐とした空間の中で、プレハブのコンビニエンスストア、給油装置のみ設置したガソリンスタンドなどがポツリ、ポツリと営業を始めていた。客がくるかどうか、採算がとれるかどうかわからないが、生きる糧を得るために無我夢中で店を開け始めたと聞いた。かつては商店街だった、家が密集していたと聞いても、現実感がないなかで、そうした店が営業をしている様子に、「ああ、ここでは人の暮らしがあったのだなあ」と気付かされる。

甚大な被害を受けながらも、明日に向かって必死で生きていこうとする人々のために、私たちが出来る支援をしなければ、と心に誓った。

石巻市では、10万人のボランティアを組織し、「奇跡のボランティア」といわれる石巻復興支援協議会で、伊藤秀樹会長から伺った。

災害発生後、全国各地からボランティアの申し出があっても、受け皿がない。何十人、何百人のボランティアがバラバラに活動していては、支援にばらつきができてしまう。遠方から支援に入るボランティアは、地理に不案内だ。しかし、未曾有の大災害の中で、外部からのボランティアの手を借りなければどうにもならない。地元のニーズとボランティアを結ぶ存在として、必要に駆られて作られた組織だ。各避難所の人数を把握し、朝、昼、晩と炊き出しのボランティアを振り分ける。NGO、NPOなどの民間団体と、行政や自衛隊などと情報交換をして被災者のニーズを的確に把握し、支援が偏らないように調整する。

伊藤さんは、「大災害時は被災した地元は何もできない。そのときに外部の力をいかに借りるか。日頃からそのシミュレーション、遠方の自治体などとの関係づくりが大切です」と話していた。（R）

ワクワクは親の方

ひよこっち・みなみっこ&バンビ

ひよこっち・みなみっこ&バンビは、南幼稚園区と壱分小学校区に住む、0歳～未就園児の親子の為の育児サークルです。普段は児童館や公園で活動していますが、皆楽しみにしているのが、毎年恒例のお芋ほりです。10月に遠足を兼ねて五反原の里の皆様にお世話になっています。

今年は小雨も混じるどんより曇り空の下、途中、工事現場の車や、稲刈り・脱穀の風景に子どもの足が止まりつつ、ベビーカーの行列で畑へ向かいました。自宅近くのいつも行くスーパーから少し歩いた言葉に甘え、無心でツルをむしる大人をよそに、子どもたちは穴ぼこがあったり、土が急に柔らかくなってる場所がある畑に、こけて泣きつつ思う存分走り回っていました。

お芋を掘り終わるまで待っていてくれた雨もあいにく再び降り出し、後ろ髪を引かれる思いで畑を後にしました。皆五反原の里でお弁当を食べて、もっと遊ぶのを楽しみにしていたのですが…。また来年の楽しみにとっておきたいと思います。

今年も親子ともにとても楽しい遠足になりました。ありがとうございました。（M）

「その人らしく生きる」を支援

リハビリテーションとは、ただ単に、骨折後や脳梗塞後の機能の回復のために、理学療法士などによる機能訓練のように理解されているように思います。もっと大きくとらえますと、「機能回復」、「社会復帰」、「権利、資格、身分の回復」という意味もあり、人間が人間にふさわしくない状態になったとき、人間が人間らしく生きる世界は広がっていきます。

介護保険サービスの提供は、専門職種それぞれが協働して、在宅支援にアプローチ。日常生活で、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく、有機的かつ一体的に提供される「地域ケアシステム」です。

看護士　山崎啓子

あったか子育て
カヌシャガマの会

子どもは社会の子、地域の子、親の子、子供たちが未来に夢を持てるように、いろいろなイベントを通して、親育て子育てをしています。

7月桜井市で「親学」、8月西光寺での夏祭り、9低下があったとしても、その人らしく、家族の一員として可能な限りの生活の幅を広げ、生活の質（QOL）を高めることにあると思います。

玄関の階段が昇りにくかったら手すりを、トイレが遠くて夜中に転倒の危険性があったらポータブルトイレの設置を…と的確な環境を整備することで、その人がその人らしく生きる世界は広がっていきます。

介護保険サービスの提供は、専門職種それぞれが協働して、在宅支援にアプローチ。日常生活で、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく、有機的かつ一体的に提供される「地域ケアシステム」です。

看護士　山崎啓子

五反原の里【道草農園】
耕さない畑で育てています
多様であること

石尾　修一

ニンジンの香りのするニンジン。噛めば噛むほど、自然に唾液が出てくるミニトマト。体の芯からほぐしてくれるショウガ。食べると、パワーみなぎるニラやニンニク。四季折々の野菜、約40種。大きいもの、小さいもの。たくさん採れたもの、採れなかったもの。いろいろ、さまざま。耕さない畑で育てています。

今、主に、（美味しい野菜にこだわっている）3軒のお店に買っていただいています。よく、「何でこんなしんどいことを」と聞かれるのですが、前向きの苦労は充実感そのもの。そんな感覚も、耕さない畑に立ってこそ得られるものなのかなと思っています。

◇　◇　◇　◇

畑をはじめてから、4年が経ち、5年目に入ります。畑を開いていくうちに、ほんとうに多くの種類の草が生えるようになり、同時に多くの動物（主に虫たち）の居場所になってきています。土の中も、触ると暖かく、目に見ることのできない 多くの小さな生きものも 生きているんだなと思い、嬉しく感じます。

畑の中では、クモ（野菜を食べる虫を、食べる虫）の見事な食べっぷりに驚いたり、同じ袋の種を播いたのに、虫のいる季節に播いたダイコンと、虫が少なくなってから播いたダイコンとの、葉っぱの毛の生え方の違いに感心したり、そんな日々の連続です。いろんな生物が生きる 多様な自然は、奥深く、生きることに前向きです。どの生き物も、「一所懸命」、命を全うし 次に命をつなげるよう必死に生きています。どの命も決して あきらめません。命の強さを見せられるたび、私はいつも心ゆさぶられ、「自分もこの畑のなかで負けてられない！頑張ろう！！」とそんな気持ちになります。

◇　◇　◇　◇

そんな、畑の仕事をしながら、人の社会へ目を向けると、危惧される（自然の理から外れている）事件、事柄が多く聞こえてきます。その中で2つ。

1つは、原発の問題。

福島県では、放射能をまき散らされたため、何十年も住めない土地ができてしまいました。まじめに、こつこつと農業をしていた人たちが、土地を追われることになりました。また、その他の県でも、放射能と向き合わないと暮らしていけない土地をつくっ

だけで、自然いっぱいの畑に行ける、そんな恵まれた環境に住んでいたことに皆驚いていました。畑に着くとちょうど雨も止み、虫さんたちに少しビクビクしながら早速お芋を掘らせて頂きました。頑張ってお芋を引っ張る子、そこら辺で土いじりをしている子、意地でもママにスコップを渡さない子とそれぞれでしたが、一番ワクワクしていたのは親のほうでした。

「隣の株にはお芋、たくさんついてるのに～」「わー、豊作だー」と大喜びでした。高柳さんたちの、お芋のツルも美味しいから持って帰ってね～　とのきに、再び人間にふさわしい状態にするというもっと生態学的（？）な意味もあります。では「人間らしい」ってなんでしょう。

「その人がその人らしく」と表現するとイメージが湧きやすいですね。病院に入院していると「患者さん」です。でも家に帰ると、「おばあちゃん」であったり、「お母さん」であったりしますよね。それがその人本来の役割であったり、ポジションで、その人らしさといえませんか？

在宅支援のリハビリテーションは、病気やけがで機能障害が残ったとしても、加齢に伴う心身機能の

月は栗拾い、10月 芋ほり、11月アーティストAKIRAさんによるライブなど、一年間を通して、たくさんの子ども達が楽しく学び、私を含めたたくさんの親達も一緒に成長していきました。

今年もカヌシャガマの会にご協力よろしくお願いします。（S）

2地区でも実証運行「たけまる号」に乗車

2011年10月17日から、近鉄生駒駅南側の本町地区（門前線）と近鉄南生駒駅西側の南地区（西畑線・萩原線）の2地区での運行が開始され、既存の光陽台と合わせて3地区で、運行されるようになりました。

12月7日水曜日午前11：22南生駒駅発、終点の暗峠行き「たけまる号」（南地区西畑線）に乗車。

車は定員8人のマイクロバスで、始発の南コミュニティセンターからの3人の乗客がいました。一人は70代女性でダイキで買い物をし、田口クリニックで下車。一人は鬼取町から買出しにきた80代男性、もう一人は50代男性で暗峠への観光目的でした。

途中、青山台住宅には3箇所の停留所が設けられています。

西池を過ぎると道幅が車1台分となり、急勾配の道を登っていきます。ここから暗峠まで、固定の停留場以外でも、手を上げたら乗車できる乗降自由区間になるのですが、今回乗り降りをされる方はいませんでした。乗降自由ですが、急勾配と車幅の狭い道では停車できないとのことです。

棚田が整備された地区を眺めつつ11：55に終点の暗峠に到着しました。料金３００円。南コミュニティセンターせせらぎ～西池は１５０円です。

そのまま、折り返しで12：00暗峠発、南コミュニティセンターせせらぎ行きに。70代女性が乗車。南生駒駅で電車に乗り変え、生駒の近鉄百貨店に買い物に行くとのことでした。

同日、13：30発生駒駅南口発の循環「たけまる号」（門前線）に乗車。南地区のたけまる号より一回り大きく定員は12人で、7人が乗車。一路、鳥居をくぐって健民グランドへ坂を上っていきます。乗客が順次下車していく中、門前駐在所で生駒駅下車目的で乗り込まれる方もいました。この路線もマイクロバスでないと通れない幅の狭い道を通っていきます。約20分で元の生駒駅に戻りました。料金は１５０円。

市民の方々にコミュニティバスについて意見を聞きました

○石佛寺に住むおばあさんが、10年ぶりにひとりで町に下りてくることができた。町の喫茶店で美味しいコーヒーを飲めるようになったとよろこんでいた。

○もう少し便数を増やしてほしい。麓で石佛寺のハイキング目的の団体が乗り込めば一杯になってしまう。

○暗峠の小学生が通学に使用でき、助かっている。

○南地区では、一日約20人の乗客、本町地区門前線は１００人ぐらい。採算のことを考えると南地区はしんどいのでは。

コミュニティバスの計画を策定した生駒市地域公共交通活性化協議会によると、新路線は、2年間の実証運行であり、本格運行となるか、また更に他地区の路線を拡充するかなどは、この2年間の実証運行での利用実績等で、判断するとのことです。

地域全体が高齢化する中、市民の足としての公共交通の重要性はますます高まるのは間違いありません。

将来の交通手段の一つとして、是非、ご利用・体験されては如何でしょうか？（T）

生駒駅南の門前線
南生駒駅西の西畑線・萩原線

ご存知ですか？コミュニティバス

てしまいました。生き物は、子どもたちに命を繋ぐため必死で生きているというのに、なんと人間は愚かなのかと・・・。「次の世代へ、まき散らした放射能の影響の不安をあたえ続け、さらに、何十万年も子孫に廃棄物を押しつけてまでして、今というときを謳歌してよいものではない！」私たちは、原発を許してきた、今の我々の暮らしを、猛反省しなといけないと思います。

もう1つは、隣の府の教育条例案。（いろいろな改革案には賛成するとこともあるのですが、どうしてもこの1点だけは一言・・）

多様な意見、考え方、生き方があっての社会です。子どもが育つ学校が、最もそういう場所でないといけないはずです。今のままの案だと、教師を評価する校長に、否、校長を採用する人と同じ考えの人のみが、学校に存在するようになっていくおそれがあります。反対する意見を潰し、1つの考え方のみに染まっていくと、戦前の日本のような失敗を再び繰り返す元をつくっていくのではと懸念します。自然は、多様であればあるほど豊かで力強く、何十万年も様々な命を はぐくんでいきます。

◇　◇　◇　◇

もっとも身近な日常のことから、踏み出さないと、いつも思っています。

汗をかき、働いた後、美味しいものを 本当に美味しく食べたとき（貪り食べるのではなく）、豊かな気持ちになります。見事に食べ、心から「（命に対して）いただきます。ごちそうさま。」の言葉を発する。日々の感謝の気持ち。そんな姿を 次の世代の子どもたちに 私たち大人が、しっかり見せていく。当たり前すぎることですが、そこからが踏み出す第一歩ではなかろうかと思います。

私は、日々精進。本物の（自然に寄り添った）美味しい野菜を食べていただくため、こつこつと前向きの苦労を 積み重ねていきたい、そう思っています。

本当に大切なもの

奈良県議会議員
高柳　忠夫

タイム誌は「今年の人」に、特定の人ではなく、抗議する人々を選びました。アラブの春に始まり、欧米では「我々は99%だ」を合言葉に、デモが始まりました。

「1%が99%を支配する、勝者が独占し多数が不幸になるという社会は公正でない」。世界各国で格差の拡大が進んでいます。人々から社会への信頼を奪い、希望やつながりの芽を摘んでいます。

リーマンショックからの立ち上がり途中で3・11大震災と原発事故でした。「絆」が昨年を表す漢字に選ばれました。つながりとしての絆は優しく、私たちをひとつに包み込む雰囲気を持ち、「絆をふかめよう」と繰り返されます。でも、絆は「気がついたら深く結ばれて深まっていた」というように、後で気づくものです。

3・11以降、私たちにとって、本当に大切なものはなんなのか。問われ続けています。絆から「つながる」「結い」「連帯」へと一歩踏み込んでいく2012年です。

今年もよろしくお願い申し上げます。

暖かなもてなしに感動
十津川温泉郷・女性二人旅

十津川温泉郷におばさま二人旅。生駒フォーラム12月号で紹介していた、台風12号被災復興支援の「南部復興プレミアム券」を持っての日本一番長い路線バスでゆく『ココロとカラダを癒す旅』です。窓外は初冬でも、まだまだ紅葉を残している山々を見て楽しむことができました。

景色が一変したのは、十津川に入る頃から。山くずれは想像していたものより、はるかに大規模で、山頂付近から崩れていました。また河川敷には流木の群れ。その数の多さに、これが本当の台風の爪痕なのかと感じました。道路もいたるところでストップ、ダンプカー、ショベルカーばかりが見える中、ホテル昂に。

温泉も、料理も、とても満足し、暖かなもてなしを受け、感動した旅でした。「ココロとカラダを癒す旅」のバス代は3割引き、そして宿泊はマイカーの方も利用できる特別価格でした。詳しくは十津川村観光協会0746-63-0200、1週間前の予約が必要です。期限は3月24日まで)。(M)

スタッフになって下さい―王寺町の西和自主夜間中学

毎週火曜と水曜日の夜(午後6時から9時)、王寺町中央公民館には、勉強することを目的に、さまざまな地域から年齢も国籍も違う生徒さんたちが集まってきます。

思い思いに教科書やノートを開き、スタッフと呼ばれている先生とマンツーマン形式で勉強を始めます。日本語能力試験を目標に日本語に取り組む生徒さん、難解な数学を解いている生徒さん、昼間の学校の宿題をしている生徒さん、さまざまな姿が教室と化した会議室のあちこちに出来上がっていきます。

だれからも、どこからも強制されることなく、自分自身の思いを大切に、勉強する場所として西和自主夜間中学は存在してきました。スタッフは、そんな生徒さんの気持ちに寄り添いながら一緒に勉強のお手伝いをしてきました。

現在、小学生から大人までの日本・中国・フィリピン・インドネシア・ネパール・ペルー・アイルランド・カナダなどの生徒さんが学んでいます。本来は、事情があり義務教育を受けることができなかったひとたちのために開校した自主夜間中学ですが、日本語を学びたい外国籍の方や文字の読み書きを必要としている方々のためにも機能しています。

一度、教室をのぞいてみて下さい。そして、ぜひスタッフになって下さい。現在スタッフが不足しています。(連絡先　090-3284-3576　事務局　山本直子まで)

『関西広域連合』で論議

関西広域連合が誕生して1年になる昨年12月3日、「県民のつどい」を奈良県文化会館で開きました。

生駒からも多くの市民をはじめ、市会議員、山下市長も参加。400人近くで会場があふれ、論議を深めることができました。

元総務大臣の片山善博さんは、国の出先機関の丸ごと移管については、地方主権を推し進めるうえで避けて通れないものであり、地方からの受け皿を作る必要があるとし、奈良県ではほとんどなかった市町村合併を教訓にして、「広域連合に必要なものは、より開かれた広域連合にするため、情報公開と説明責任」「単位自治体の質を高めること」だと強調していました。

高柳忠夫県議会議員は、「広域連合の重要性を訴える県会議員で議員連盟の活動をつくること、議会内だけの議論でなく、広く県民の皆さんと議論を深めるためのつどいを今後も開催していきたい」と訴えています。

原発に反対する島民たちの「日常」と「叫び」

島の暮らしにこだわる

―「祝島」の監督、纐纈(はなぶさ)あやさん

「島の暮らしぶりを撮ることにこだわった」。中国電力の上関原発計画に約30年間、反対を唱え続ける祝島の島民たちを描いたドキュメンタリー映画です。

原発計画をめぐり、推進派と反対派の意見を並べるだけでは真実は伝わらないと2008年から2年間、島で自炊をしながら、原発に反対する島民たちの「日常」と「叫び」を撮り続けました。

『経済発展のための原発と、自然の恵みで暮らす島民。この対立の構図は、形を変え私たちの周りにも』。

福島原発事故を教訓に「人間は大地に生きている。地球から決して逃げられない」との視点を共有できればと思います。

☆ 2012年1月15日(日)1時～
☆ ISTAはばたき小ホール
☆講演会　纐纈はなぶさあやさん
映画「祝の島」監督
☆映画上映
☆交流会　原発建設に反対を続ける
「祝島」の住民の皆さんと

1000年先にいのちはつづく
祝の島(ほうりのしま)
原発予定地から
朝日が昇る
島のいのちが
今日も始まる